

## 趣旨の説明

### 京都大学

皆様、本日は京都大学附置研究所・センター主催、読売新聞社後援によりますシンポジウム「京都からの提言 21世紀の日本を考える」の第1回目にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます田中けいこと申します。どうぞよろしく願いいたします。

さて、本日のシンポジウムは16の研究所および研究センターを持ち、基礎的研究において独自の研究業績を持つ京都大学が、それらの成果を社会に還元したいという思いから実現いたしました。日本が抱えるさまざまな問題の本質を開示し、展望を提示する本シンポジウムは、京都大学の全研究所および研究センターが連携し、今年から10年間かけて全国の政令指定都市で展開していく予定です。

その第1回目となります本日は、午前の部として「危機をいかに乗り切るか？」をテーマに、防災研究所の河田恵昭所長と経済研究所の佐和隆光所長が講演を行います。続いて午後の部では「東アジアといかに向きあうか」をテーマに、人文科学研究所の金文京所長と東南アジア研究所の濱下武志教授が講演を行い、最後にゲストパネリストを迎えてのパネルディスカッションを予定しております。

まず初めにシンポジウムの開催に当たりまして、京都大学総長の尾池和夫よりごあいさつ申し上げます。